



1年生交通教室

今日は、1年生の交通教室が行われました。東署から3人、地域の交通安全協会から3人、ひまわり隊（警察OB等）4人の計10人を講師に迎え、横断歩道の渡り方を学びました。熊本県警の令和4年度の統計によると、小学生の交通事故では、ケガをしたのは、1年生が22人と他の学年を大きく引き離してワースト1位です。これは小学生全体の25%以上を占める割合となっています。また交通事故の理由として、「飛び出し」等が上位を占めます。その理由として、1年生は視野が狭いため、道路への飛び出しも多いからだと考えられます。なお、交通事故が最も多いのは、5月と10月だそうです。これは、学校に慣れた5月、夏休み明けから少し気が緩む10月が多くなるのだと推測されるそうです。



今回の交通教室は、警察からのお話や、横断歩道の渡り方の実技、シュミレーションというモニターを使った実技等があり、充実した安全教室となりました。

「帯西イエロー」の心で交通ルールをしっかりと守って、「帯西ブルー」の心で、自分の命はしっかりと守って欲しいと思います。お家でも、通学路の危険箇所を確認したり、交通ルールについて今一度話題に挙げたりしていただけると幸いです。

●ひこうきぐも✈ vol.19

都会の喧騒を離れるべく、一路ドイツのローテンブルグに向かいました。この地は「中世の宝石」といわれる所で、城壁にぐるっと囲まれた町です。この城壁は、普通の2階建て民家位あり、外からの侵入を拒んでいるかのようでした。そして町の中は中世のヨーロッパの街並みそのもので、家々の屋根はその殆どが赤茶色で、城壁の上に登り町の全景を見渡すと、一層それらの屋根の彩りが美しく感じられました。また、城壁の外に視線を移すと、豊かな田園風景がどこまでも広がっていました。中世の旅人になったつもりで、石畳の道を歩いて行き、マルクト広場という所に出てみると、たくさんの日本人観光客団体と出会いました。田舎の町でゆっくり旅の疲れでもとろうと思ったのですが、小さな町は日本人でいっぱいということになってしまいました。このときは私も粋がっていて、「集団での旅行は旅にあらず」なんていう、変な信念を持っていましたので、観光客団体を避けるように、次にもっと田舎の方へ行こうと思いたち、フッセンという町に行くことにしました。



景観が美しかったドイツの町並み

駅に着くと、見知らぬおじさんが話し掛けてきて、「家に泊まりに来い。」というようなことを言うるらしいのですが、ドイツ語でよく分かりません。人のよさそうなおじさんを信じて、家までついて行く（よい子は絶対まねしないでください）、おじさんの家はペンション形式の宿でした。なかなか商売上手だなと感心しつつ、他に行くあてもないので、結局そのペンションに泊まる事にしました。

ペンションのおばさんはとても親切で、部屋は清潔で料理もおいしく、宿代も安いのです。また、何とも居心地がよく、まるで田舎の祖父母の家に遊びに行ったような感覚でした。そして、部屋の窓からはディズニーランドのお城のモデルとなったと言われる、「ノイシュバンシュタイン城」が部屋の窓から見えるのです。夜は、ライトアップされた白亜の城を見ながら眠りにつくことができました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは昨年度からの累積です。